

平成二十一年度 大学院文学研究科国文学専攻

修士論文 題目

川上摩里子 文化化の観点から見た接頭辞の研究

——「大（おお）」「小（こ）」「手

（て）」を例にして——

田嶋彩香 宮沢賢治と女性——賢治童話にあらわれる

女性像を中心に——

山口みなみ 『あ・うん』と『幸福』に見る日常へのア

プローチ

平成二十一年度 文学部国文学科

卒業論文 題目

池田三枝子ゼミ

荒金良美 大津皇子の変

飯島理沙 万葉集における月の役割——歌人たちは古

代の月になにを想ったのか——

五十嵐彩子 黄泉国神話研究——古事記神話における女

性像を中心として——

井口望 軽太子・軽太郎女悲恋物語考

石見りさ 黄泉国・根之堅州国の在りか

加藤愛 ウケヒから見るスサノヲ像

加藤佳子 ウガヤフキアヘズノミコト考

——海外伝承との交わり——

神谷唯 ヤマトタケル伝承研究——悲劇の英雄——

伊ハノヒメ

——歌謡物語から見る人物像——

高瀬智子 神婚と巫女——神とのつながり——

田上香織 黄泉の国研究

——黄泉の国は地下世界か——

馬場迪代 出雲と大和政権

日野恵理子 コノハナサクヤビメ——選ばれし女性の与

える繁栄と死——

堀籠泰世 柿本人麻呂殯宮挽歌考——日並皇子・高市

皇子殯宮挽歌を中心に——

町田桃子 アメノウズメ考

——アメノウズメから猿女君へ——

松本奈々 草壁皇子考

上代における「みること」について

——トヨタマビメ神話を中心に——

谷藤聖美 大伴旅人「亡妻挽歌群」——絞られる呼称

と景物の関係を中心に——

渡辺英美 歌垣における〈境界〉——上代文献と中国

少数民族の事例から——

武藤桃子

舒明天皇国見歌の研究

——歌表現を中心に——

北原千秋

梶井基次郎研究——作品に対する自我形成期の影響について——

村田恭子

トヨタマビメ神話研究

窪田優希

萩原朔太郎・田中恭吉研究——「月に吠える」の詩と挿画——

神山奈都子

鏡王女研究

小寫瑠惟

村上春樹論——暴力について——

影山輝國ゼミ

杉本千明

島木健作の「転向」

——新しい思想的地平——

坂口知恵子

薛濤と魚玄機——詩妓の双壁——

田中舞

梶井基次郎研究——梶井の生と死——
宮沢賢治研究

永井理子

論語義疏中の邢昺正義竄入について

田村麻衣

芥川龍之介論

松山結加里

元帝国——その中国支配と日本遠征——

寺坂友里

森茉莉「甘い蜜の部屋」

渡邊佳奈

諸葛孔明の生涯

永野友里加

——モイラという少女——

栗原敦ゼミ

林真理絵

相田みつを——独自の詩について——

猪俣尚子

中島敦の「山月記」研究——『臆病な自尊心』と『尊大な羞恥心』から探る——

廣岡和花子

樋口一葉研究——樋口一葉の作品から見た『心』の『淋しさ』をめぐる——

植松千穂

墮落論について——「墮落」を通して目指した理想とは——

宮澤春香

村上春樹『ノルウェイの森』論

小田中奈月

夏目漱石研究——夏目漱石の目から見た自身と明治社会——

三輪晴美

——交差する人々のもつれ——

夏目漱石研究

——夏目漱石の目から見た自身と明治社会——

太宰治論

——生活から見える太宰の死生観——

身と明治社会

——

——

——

身と明治社会

——

——

——

身と明治社会

——

——

——

村田麻弥 夏目漱石研究——書道から見る芸術論——
森谷慶子 志賀直哉研究

山縣仁美 『『児を盗む話』の日常変革——
宮沢賢治「風の又三郎」論——

山口友子 「風の又三郎」の成立について——
児童文学作家としての新美南吉——

吉野由葵 国語教育におけるその位置づけ——
太宰治『ロマネスク』論

小山ゆり花 泉鏡花——女をめぐる水・血・紅——

佐藤悟ゼミ

青柳妙 山岡元隣『百物語評判』論

近藤美智子 初代中村仲蔵の芸風

後藤ひとみ 五代目市川団十郎との関わり——
滝亭鯉文論——

辻田有希野 『八笑人』と十九世紀の機知——
山東京伝初期黄表紙の研究——

星野智子 『米饅頭始』を中心に——
『武家義理物語』の研究——

——法制史の視点から——

安光若葉 歌舞伎の近代化
柳澤友梨 近藤清春考——「大友真鳥」を通して——

棚田輝嘉ゼミ

赤堀文 あなたは周りの愛情に感謝していますか？
——江國香織の描く季節の中のささやか

淡路香子 ながらも大きな愛情——
普通の恋愛も捨てたもんじゃない

安藤沙理 寺山修司の詩の世界——
石田衣良作品の恋愛傾向——

井上香織 『少女詩集』を中心に——
鍵を使って覗く「人間」——物語のキーワード

神山知美 日常的マイノリティー——江戸川乱歩小説
における日常・非日常——

北村又玲光 センチメンタル東京——
ハローグッバイサンキュー——

桑澤千奈 私の『心』覗いてみませんか。
——乙一ワールドから見る光と闇——

小泉今日子 「死を背負い生を叫ぶ」

鈴木美穂
—— 太宰治が描いた生き様たち ——
あなたと合体したい —— ロボットアニメに
見る変化と不変 ——

高橋優子
旅をして人は強くなる —— よしもとばなな
作品におけるトポス ——

田財まどか
小川洋子作品論 —— 欠落、それは決して悲
しいことじゃあない ——

玉城優
装像 —— 谷崎潤一郎が描く衣裳 ——

手塚恭子
夢の深淵 —— 夢野久作作品の人々 ——
夢と希望に向かつて ——

中原祐未
—— 夢にときめけ・明日にきらめけ ——
山田詠美の特殊感覚 —— 香ると味わう ——

新野由里加
私を変えたもの —— 変化の先には ——
西原いずみ
向田邦子論 ——

—— 人間の「強さ」と「弱さ」 ——
歌の中の女たち —— 「あなた」と「わた
し」の恋愛関係 ——

堀辰雄の死生観 —— 愛と死を見つめて ——
寺山修司の描いた女性たち ——

世界の境界線上
—— 上遠野浩平の「セカイ」 ——

「人間」って……何？ —— SF作家、神林
渡部麻美

長平の世界の「人間」たち ——
齋藤芳美
『恋愛ドラマの創り方』 —— 北川悦吏子が
描く真実の愛を追って ——

酒田由梨栄
心に強さを
—— 恩田陸の描く女の生き様 ——

福嶋健伸ゼミ

井上愛
オノマトペの変遷 —— キャッチコピーに見
られるオノマトペ ——

今福美佐子
『醒睡笑』の悪口を分析する
—— 現代の悪口と比較して ——

大沢明子
死語になる規則性
—— 死語辞典から探る ——

加藤久美
表記の変遷について
—— 『婦人之友』の投稿欄を中心に ——

川口由奈
実際の接客マニュアルの変遷 —— 究極の接
客マニュアル作成のために ——

坂本真紅
係助詞「こそ」の変遷について —— 『伊勢
物語』『かげろふ日記』『土佐日記』『保
元物語』の比較 ——

相樂ゆり

程度を表す副詞の体系的変化——「大変お

いしい」から「とてもおいしい」へ——

櫻田瑞穂

吹き替えやアニメにおける鼻濁音について

——世代差／方言差／環境差の観点から

佐藤真美

福島県会津地方における「だから」の使用

について——同意表現に用いる場合：

「このブランドの服可愛いよね。」「だから——。」

佐藤真由美

方言の共通語化

——「しんどい」は方言か共通語か——

篠原麻美

接頭語で使用されている「お」について——

年代差／地域差／性差の観点から——

下田桃子

古典文学に見られる役割語——『源氏物語』の「なむ」と「こそ」——

新谷茉莉子

「やばい」の変遷について——副詞的用法

「やばいおいしい」の「やばい」を中心

に——

杉村愛妃

古文文法を楽しく学ぶ方法

——ゴロと歌のパターン——

手代木悠

東北方言の格助詞「さ」と共通語の格助詞

「に」との比較——「机の上さ本があ

箱森美樹

る」の浸透——

直接接触による他方言の受容——共通語話

者と関西方言話者の会話から——

依田真由美

『日葡辞書』のオノマトペと『日本語オノ

マトペ辞典』の比較分析——「ウロメ

ク」から「うろろう」へ——

渡邊沙織

「めり」の衰退と「なり」——証拠性の観

点から『栄花物語』と『今鏡』を比較す

る——

渡邊浩子

広島における敬語の使用——敬意の高い共

通語形式と「れる・られる」の使用の違

いについて——

牧野和夫ゼミ

坂井恵

御伽草子「浦島太郎」の諸本と龍宮をめぐ

る研究

坂田光

『日本霊異記』所収冥界説話の諸相とその

差異について

佐藤悠衣

室町期成立の兵法伝承の諸説と『義経記』

の兵法伝承について

清水寛子 継子譚の展開の諸相

首藤奈緒 兼好法師の伝説

高野優子 『鼠の草子』絵巻について

土屋枝里香 —— 欠落箇所の復元的研究 ——

御伽草子『ふくろう』と『車僧』との関係
について

永井美紀 百鬼夜行絵巻諸伝本系譜の謎

原田亜璃沙 江ノ島弁才天と龍蛇

—— 史的展開をめぐって ——

齋藤祐衣 知盛像

鈴木尚奈 直江兼統の文事

原田由佳里 ものぐさ太郎の研究史探究

深沢貴子 『発心集』と『古事談』のテキスト上の
関係についての一考察

三橋由衣 『源平盛衰記』所収「甘糟太郎説話」の書
承関係について

山内博之ゼミ

岩脇絵里 挨拶表現のテンスについて

梅田佳奈 類似表現と略称に関する研究——同一事物

小山香

近悠美 「足す」「加える」の使い分けについて

澁市明日美 フィーラー「こう」の機能について

鈴木由佳里 流行語の中で用いられる接尾辞に関する研
究——「系・族・派」を中心に——

林祐希 日本酒と焼酎の命名について

古谷敦美 首都圏における駅・停留所の命名

細谷敬子 「ほう」の意味・用法について

本橋佳子 児童書の形態素解析

—— 絵本を例にして ——

山本絵里奈 名詞「顔」を修飾する表現について

名詞の複数性に関する研究——接尾辞「た
ち」と連体詞「ある」の使用を指標にし
て——

横井孝ゼミ

雨宮由利恵

清少納言の美意識——古今和歌集と源氏物
語との比較から——

五十嵐唯 源氏物語植物考——女性呼称を通して——

井上暁美 六条御息所と光源氏

を指す複数の表現の関係について——

「足す」「加える」の使い分けについて

フィーラー「こう」の機能について

流行語の中で用いられる接尾辞に関する研
究——「系・族・派」を中心に——

日本酒と焼酎の命名について

首都圏における駅・停留所の命名

「ほう」の意味・用法について

児童書の形態素解析

—— 絵本を例にして ——

名詞「顔」を修飾する表現について

名詞の複数性に関する研究——接尾辞「た
ち」と連体詞「ある」の使用を指標にし
て——

岩澤朋未

源氏物語女性論——「もののけ」を通して
見る六条御息所と紫の上——

柏原遙

——現代語訳にみる両者の関係——
竹取物語論——昔話と比較して——

加藤あさ美

『源氏物語』考——紫上ははたして正妻で
はなかったのか——

金澤麻衣子

「源氏物語」の女性達——光源氏から学ぶ
皇女の口説き方——

神崎なつ美

『古今和歌集』在原業平歌の研究——「略
才学無し」と言われた歌人の漢文学的素
質——

鈴木沙緒里

源氏物語について

——光源氏の追い求めた母の姿——

曾田望

『源氏物語』考——藤壺宮の想い——

高井奈々恵

現代訳における『源氏物語』の差異

——若菜上・下を中心に——

武内麻衣

源氏物語葵の上と六条御息所

——妻の座をめぐって——

竹村真実

紫の上と女三の宮

——「妻の座」をめぐって——

貫名美紀

『古今和歌集』恋歌

——平安時代における恋——

福島光子

紫式部論

——友人、小少将の君について——